

耳を澄ますと、

内定者の『声』

内定者の声

環境省

令和2年度

環境省総合職事務系内定者

[注意]

本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、
環境省の意向を反映したものではありません。

はじめに

この国の風土を、「子の世代」に繋ぐ責任

環境省を志す皆さま、こんにちは。
この度は「内定者の声」を手にとって頂き、
誠にありがとうございます。

本書は環境省に興味がある、どんな内定者がいるのか気になる、
官庁訪問に向けた準備に情報が欲しい...など、
将来の岐路に立つ受験生の皆さまに、
環境省という組織を知って頂く為の冊子となっております。

私たちが抱く、「環境を軸に、この国を良くしたい」
その想いを皆さまに少しでもお伝えできれば幸いです。

どうぞ勉強の息抜き、情報収集、
そして環境省志望のモチベーション向上などに、
ご活用下さい。

目次

Chapter 0 1 公務員試験・官庁訪問の流れ

官庁訪問までの 1 年の流れ	0 6
イベント内容紹介	0 7
官庁訪問について	0 8
官庁訪問の日程「平成 31 年」	0 8

Chapter 0 2 内定者の基本情報

内定者の基本情報	1 0
最終学歴	1 2
内定者出身地データ	1 2
官庁訪問先データ	1 3
(参考) 内定者の年度比較	1 4

Chapter 0 3 試験対策

法律区分	1 6
経済区分	2 0
政治国際区分	2 2
教養区分	2 6
院卒行政区分	2 8
章末コラム「人事面接」「政策論文」について	3 2

Chapter 0 4 内定者プロフィール

内定者プロフィール 3 4

章末コラム「官庁訪問や説明会にて、印象に残ったこと」 5 8

Chapter 0 5 官庁訪問・面接対策まとめ

官庁訪問のある 1 日の流れ 6 0

官庁訪問で聞かれた質問例・その他 6 1

訪問者カード 6 2

Chapter 0 6 内定者による座談会

インターン・OBOG 訪問経験者の対談 6 4

海外留学経験者の対談 6 6

地方出身者の対談 6 8

おわりに

Chapter

01

公務員試験・官庁訪問の流れ

環境問題を真剣に考える

時代になった。



官庁訪問までの1年の流れ

2018 年

省庁説明会(随時 HP にて掲載)
インターンシップ開催(7月 20 日～)
国家総合職・教養区分(9月 30 日～)

4月～12月

JOBトーク(他の月も開催)
他省庁合同説明会(他の月も開催)
少人数座談会
政策シミュレーション
霞が関 OPEN ゼミ(3月4日)

2019 年

1月～3月

国家総合職・専門区分(4月 28 日～)
1次試験合格者向け説明会
環境省・初めての人向け説明会

4月～5月

6月以降

最終合格発表(6月 25 日)
官庁訪問(6月 26 日～7月9日)
内々定解禁(7月9日)

環境省説明会の参加には
「環境省マイページ」
の登録が必要です！
様々な情報発信も随時
行われる予定です。
ぜひご活用ください！

※上記は昨年度の流れの略図です。
試験準備に向けた参考程度にご覧ください。

イベント内容紹介

JOB トーク

環境省職員が、これまで携わった業務について具体的に話す企画です。
環境省の概要説明しか聞いた事がない・・・という方にオススメのイベントです。

少人数座談会

全体説明会とは異なり、いくつかの小グループに分かれ、相談や疑問の解消、現職の職員に対する質問の機会となります。まだ漠然と自分の進路選択に不安がある...そんな悩みにも寄り添ってくれます。

他省庁合同説明会

業務内容への理解や、志望省庁選択にも活用できる複数の省庁合同の説明会です。農林水産省、原子力規制庁など、自分の興味関心がある省庁と比較検討する良い機会になります。

政策シミュレーション

実際の業務内容に近いテーマについて、政策立案を行い、環境省への理解を深めるイベントです。「海洋プラスチックごみ問題に立ち向かう」「世界一丸で挑む気候変動対策」「持続可能な社会の構築に向けて」など、政策テーマは多岐にわたります。

霞が関 OPEN ゼミ

人事院主催、春の国家公務員の業務説明会における最大のイベントです。環境省職員が、環境行政の最前線の仕事や、組織についての様々なコンテンツを話します。環境省のビジョン、そして職員個人の本音など、環境省で働く魅力を知る絶好の機会です。

環境省 初めての人向け説明会

環境省に興味を持って頂いたばかりの方向けの説明会です。当日は採用担当職員から環境省の概要をじっくり丁寧に説明します。これまで説明会に参加してこなかった・・・説明会に参加したことはあるけどもう一度聞きたい・・・来年度受験を考えている、(新3年生)など、誰でも大歓迎です！

官庁訪問について

官庁訪問とは？

「総合職試験最終合格＝採用ではありません！

各府省に採用されるためには、総合職最終試験合格後に官庁訪問を行い、各府省の面接などを受ける必要があります。志望する府省を積極的に訪問しましょう！

官庁訪問は、志望する府省に関する知識を深めるとともに、内々定に向けての自己PRの絶好の機会になります！」(人事院資料より引用)

志望者は決められた期間内に、人事院の定めるルールに従い、各府省の選考過程に進むことになります。

官庁訪問のシステム

官庁訪問は複数のクール(昨年度は5クール)によって構成されており、同じクールの中に同じ府省を複数回訪問することはできません。なお、第3クール以降は「リセット」され、前クールの訪問順に縛られることなく任意の府省を訪問する事ができます。なお、総合職試験の合格は「3年間」有効です。したがって、仮に失敗しても、最大3回の官庁訪問の機会があります。

参考:官庁訪問の日程(令和元年度)

※令和2年度の日程については、人事院、各府省のホームページを確認して下さい。

日	月	火	水	木	金	土
			6/26	27	28	29
			第1クール			
30	7/1	2	3	4	5	6
	第2クール			第3クール		
7	8	9	10	11	12	13
	第4クール	第5クール	内々定解禁！！			

Chapter 02

内定者の基本情報

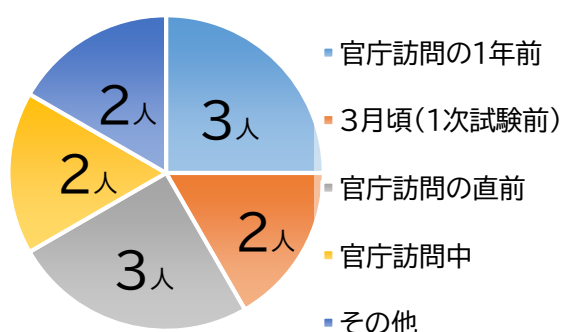
わたし、「ここにしか」住めないの…





環境省を志望した時期、出身地、試験区分の内訳、席次、予備校、民間企業の志望状況、最終学歴、内定者の基本情報をまとめました！！

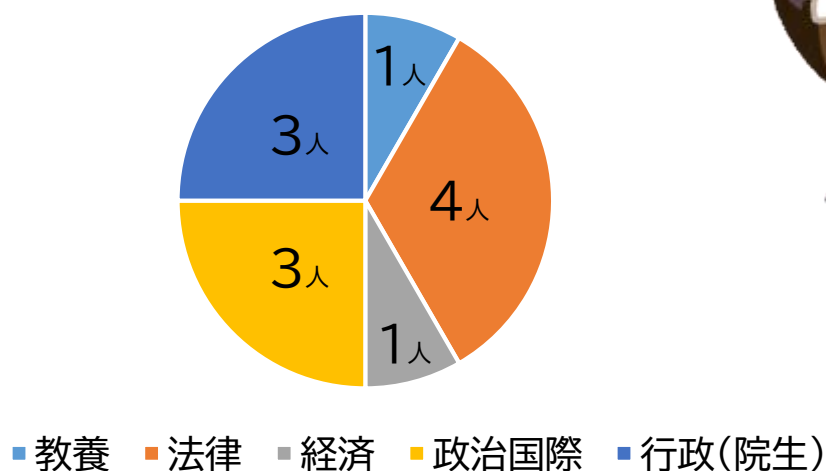
環境省を志望した時期



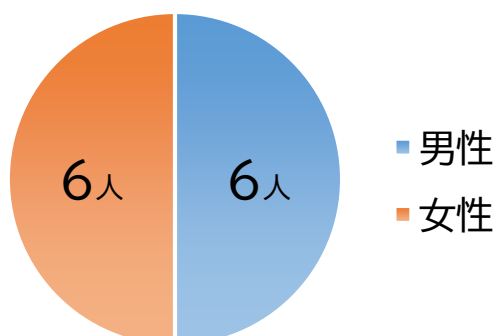
環境省を志望した時期は、多種多様でした。官庁訪問の1年以上前から、環境省への想いを温めていた者、自己分析の結果として環境省を志望した者、官庁訪問にて他の省庁と比較した結果として志望した者、それぞれに物語があったようです。



試験区分

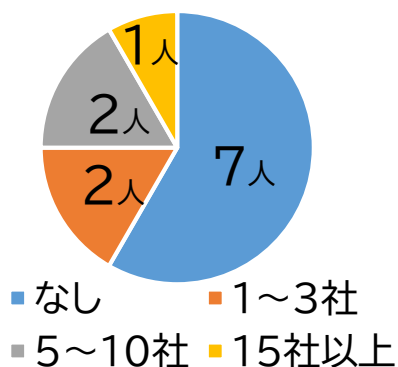


2020年度内定者男女比率



環境省では多様性を尊重するべく男女問わず、様々な経歴を持つ、環境行政に対して強い想いを抱く学生を採用しています。今年の内定者の試験区分も多様です。

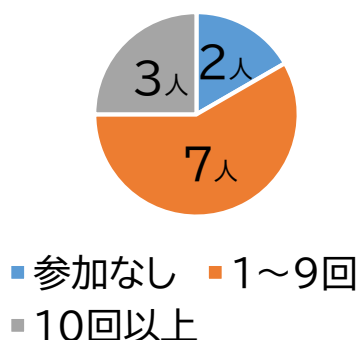
民間企業の志望状況



今年度の「民間企業の志望状況」からは、比較的公務員一本の学生が多いことが分かります。

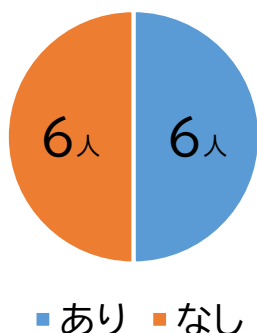
その一方で、民間企業を検討した内定者からは、「面接を経験したことで新しく得られた知見、話し方のコツが官庁訪問の成功に繋がった」などの意見が聞かれました。

環境省説明会 参加回数



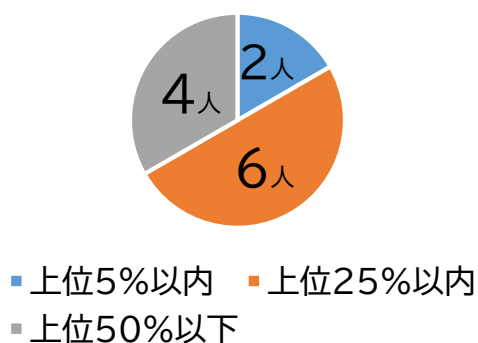
環境省では、1年間に複数回の説明会や、座談会を開催しています。ご覧の通り、内定者のほとんどが説明会で省庁の職員と話をし、情報収集をしていました。説明会の参加回数にかかわらず、区別なく面接が行われているため、訪問者の全員に内定獲得の機会があると分かります。もっとも、環境省の業務を理解する機会になりますので、積極的に説明会に参加してくださいね。

予備校の利用状況



予備校の利用状況は、半分半分という結果でした。予備校の教材に頼らず、独自に市販教材で勉強した学生も結果を出せているようです。また、内定者の席次も、全員が上位という訳ではありません。席次はあくまで参考程度だと思います。どれだけ自分の言葉で志望動機を語れるかなど、評価要因はその他にも沢山あり、官庁訪問に臨む全受験生に門戸が開かれていると言えるでしょう。

内定者の席次



**自己分析、説明会の参加、
そして試験勉強を
計画的に進めましょう！**



最終学歴

大学	専門分野	人数
慶應義塾大学	法学部政治、大学院 法学研究科	2
同志社大学	政策学部、法科大学院	2
北海道大学	文学部(西洋史学)	1
千葉大学	理学部(生物学科)	1
一橋大学	法学部、社会学部	2
首都大学東京	都市教養学部	1
中央大学	大学院 法務研究科	1
英国 ダラム大学	歴史学部	1
中国 北京大学	大学院 中国学・政治学	1

2020 年度 内定者 出身地データ



官庁訪問先データ

3日間における官庁訪問にて、内定者のほとんどが「1日目」「2日目」に環境省を訪問していることが分かります。3日目訪問の内定者は、他省庁と比較しながら志望動機を固めていました。

省庁(第1クール)	1日目	2日目	3日目
環境省	5	5	1
外務省	5	1	-
厚生労働省	-	1	-
農林水産省	1	3	1
経済産業省	-	1	1
公安調査庁	1	-	1
人事院	-	-	1
国土交通省	-	-	1
内閣府	-	-	1

※内定者のうち1名は、第2クール1日目に環境省を訪問しました。

*2020年度は大学、専門分野、出身地が文字通り、「多様」な12名が内定しました。幅広い環境行政に対応するため、専攻分野を横断した学生の採用を実施しているように思われます。



内定者数の年度比較

2014-2019 年度の総合職事務系の内定者および 2020 年度の内定者の内訳は下記の通りです。
 ご覧の通り、年度によって区分別の内訳や採用者数が異なることが分かります。
 また昨今の環境行政の拡大に伴い、2020 年度には採用人数、女性の比率も増加しました。

単位:人

区分 \ 年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
教養	1	0	1	0	0	3	1
法律	6	7	2	2	1	2	4
経済	1	3	1	2	1	1	1
政治・国際	0	0	0	1	1	0	3
行政(院卒)	2	2	2	0	2	2	3
合計	10	12	6	5	7	8	12

男女比率については以下の通りです

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
男/女(人)	7/3	8/4	3/3	3/2	5/2	5/3	6/6

今こそ、『環境問題』に

挑戦しなければならない

Chapter
03
試験対策

1. PROFILE



- K. C.さん
- 千葉大学理学部生物学科
- 法律区分(10 番台/449 名)

大学は理系でも、受験区分は法律！
隙間時間を有効活用して、見事に上位合格！

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間：3時間

- ✧ 6月から学内講座を利用して、勉強開始
- ✧ 数的処理は20問／1週間 をこなしていた
- ✧ 憲法の授業後は必ず復習＆講義該当箇所の問題集を解く
- ✧ 隙間時間に何度も復習し、記憶の定着を図る



9月～12月 1日の勉強時間：8時間

- ✧ 文章理解の過去問集を週1で開始
- ✧ 民法と行政法を開始(憲法と同じ勉強法)
- ✧ 多くが苦手とする民法を得点源とするため集中的に学習(9・10月は毎日1時間)
- ✧ 経済学は出題の多い計算を5周、理論を3周した
- ✧ 年末からは二次試験対策や問題集の時間を作るために暗記を計画的に行った
- ✧ 数的処理は上記と同様継続して勉強した



1月～3月 1日の勉強時間：8時間

- ✧ 教養試験の知識分野の学習開始(理系出身なので人文系は捨て問)
- ✧ 1月中に憲法・民法・行政法の最終確認用問題集を1周した
- ✧ 政治学・行政学・財政学・労働法の学習開始、教科書音読とインプットに努める
(メイン科目でないため問題集は解かず)
- ✧ 2月から専門記述の学習開始
- ✧ 憲法・民法・行政法の1行問題をそれぞれ1日3題暗記
(ネタは予備校のテキスト)

4月～6月 1日の勉強時間：6時間

- ✧ 4月から過去問演習開始
(※大学の研究により開始が遅くなった、もっと早く始めれば良かった)
- ✧ 専門記述試験対策として衆議院法制局や参議院法制局などを受験した

3. ワンポイントアドバイス

特によかったと思う試験対策法

国家総合職の専門記述対策をする際に、いきなり事例問題から勉強を始めるのではなく、都庁や裁判所の過去問や予備校のテキストを使い、一行問題から勉強を始めたことです。

一行問題の勉強で各論点が整理され、事例問題は一行問題で覚えた内容をあてはめるだけでした。

民間就活・学業との両立

隙間時間を使って勉強をしていました。通学の2時間や研究の電気泳動をかけている時間など初めのうちはスマホを使いたくなっていたが、1か月頑張って続けたら習慣になり、勉強時間をそこで稼げるようになりました。

1. PROFILE



- S.Y.さん
- 一橋大学法部
- 法律区分(150 番台/449 名)

法学部出身の、法律区分受験、
国家総合職試験の王道パターン！

2. 試験対策の流れ

4～8月 1日の勉強時間:1時間

✧ 8月から数的数理と判断数理を開始、問題を毎日解く

専門科目の対策は夏明けから
でも余裕で間に合います！！



9月～12月 1日の勉強時間:6時間

- ✧ 法律区分だけでなく教養区分も受験した
- ✧ 数的処理と判断推理は効率が悪く、思った通り点数が稼げなかった
- ✧ 教養区分での失敗から、法律区分対策では専門に力を入れた
- ✧ 憲法の問題集は10月から、民法・行政法は11月後半から開始
(独学、市販問題集使用、教科書も参照、行政法は先に教科書から読んだ)
- ✧ 予備校の模試を受験して、理解度確かめ、復習を重ねた

1月～3月 1日の勉強時間:8時間

- ◇ 人文科学・社会科学の市販のコンパクトな参考書を3月から開始した
- ◇ 憲法・民法・行政法問題集を毎日繰り返し解く(間違いやすい点、ポイントを書き込む)
- ◇ 予備校模試2回目を受験(弱点を発見、把握して対策する)
- ◇ 政策論文は「公務員試験の論文の書き方の参考書」で対策
- ◇ 政策論文の書き方は友人にもらった予備校の薄いテキストを読み学習した
- ◇ 面接カードは実際に書いて、添削・アドバイスをもらう(簡潔に書くことを意識)
- ◇ 面接のため想定問答集の作成も行なった

4月～6月 1日の勉強時間:8時間

- ◇ 人文科学と社会科学を一通り読んだ後、特に重要度の高い分野はしっかり覚えるようにした
- ◇ 時事問題は市販の参考書と問題集を活用(得点源とするため繰り返した)
- ◇ 直前の2週間は過去問を2～3日に1年のペースで解き、文章理解や資料解釈に触れるように意識して、時間配分を検討した
- ◇ 4月から刑法・労働法・財政学を学習(基本問題に絞る、皆が落とさないところを確実に拾う)
1次試験後から記述試験対策を開始した
具体的には、市販テキスト使用して確実に解けるように要点・定義を覚える作業に従事した
なお書き方もそのテキストを参考にした

3. ワンポイントアドバイス

民間就活・学業との両立

民間企業は夏～冬に本選考を受けて終わらせた方がいいと思いました。面接や自己分析を厳しくできたので、民間就活を経験してよかったと思っています。

特によかったと思う試験対策法

繰り返し同じ参考書をやり続け、どんな形で出ても解けるように覚えたことです。全科目を同じ時間かけてやるのではなく、合格点を取れるように重要な科目とそうでない科目の優先順位をつけてやったことが功を奏しました。

1. PROFILE



- Y.T.さん
- 同志社大学政策学部政策学科
- 経済区分(110 番台/168 名)

政策学部にて勉強しながらも、
経済区分にて受験、独自の勉強方法で
無事に合格！

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間:6 時間

- ✧ 5月から学内の講座が始まったので受講した
- ✧ 数的処理・判断推理の学習開始(市販の問題集を使った練習)
- ✧ 経済原論の学習開始(問題集を繰り返し解く中で慣れていく)
- ✧ 憲法、統計学も同様に学習計画を立てて進めていた

9月～12月 1日の勉強時間:6 時間

- ✧ 経済政策の学習開始(ひたすらに理解する作業を続けた)
- ✧ 4～8月の間に続けた勉強内容を継続、復習を繰り返した

勉強をしたら、問題を適宜解くことをオススメします！
車の両輪のように、インプットとアウトプット作業を
繰り返すことで記憶が定着し、試験内容に対する
本質的な学びに繋がります！！



1月～3月 1日の勉強時間:10時間

- ◇ 冬休みから数的処理と判断推理以外の科目を学習開始
(その後、もっと早くからやるべきだったと後悔した)
- ◇ 「経営」や「経済史」など、その他の科目を学習開始
- ◇ 経済区分も暗記系の科目が多いので一気に覚える

4月～6月 1日の勉強時間:8時間

- ◇ 教養科目(時事など)は暗記すべきことを暗記(あまり勉強できていなかった)
- ◇ 試験直前は「苦手分野の克服」と「暗記」を繰り返した
- ◇ 一次試験後から試験委員の先生の本を読み、答案の記述練習をした

3. ワンポイントアドバイス

民間就活・学業との両立

民間は5社ほどしか受けなかったもので、公務員の勉強に影響が出ることはあまりありませんでした。学業も怠りたくなかったので、学業に支障がでないように公務員の勉強をするために隙間時間も無駄にしないように常に意識していました。

特によかったと思う試験対策法

2次記述対策では試験委員の先生の本は丁寧に読んでおいた方が良いと思います。押さえるべき論点や試験の頻出分野がわかってくるはずです。1次試験勉強の時点で、2次に記述があることを意識して、本質的に理解出来ていれば勉強は苦でないと思います。

1. PROFILE



- K .M.さん
- 北京大学大学院政治学コース
- 政治国際区分(10 番台/86 名)

計画的に勉強を進め、専門科目を完全制覇して無事に合格！

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間:1時間

- ◇ 数的処理の問題を解きながら、基礎科目の対策を開始
- ◇ 自分の理解度に応じて、弱い分野を中心に勉強
- ◇ 基本的には得点の中心となる「メイン科目」に重点を置いていた

配点の高い専門科目、専門記述を集中的に勉強する事で、効率よく点数を稼ぐ事ができます！要領を意識しましょう！



9月～12月 1日の勉強時間:10 時間

- ◇ 1次試験対策
数的処理に重点を置いて勉強(すべてを基礎から毎日コツコツ)
- ◇ 2次試験対策
 - ・問題数や難易度などから、メイン科目、準メイン科目、サブ科目という風に分別し、時期・量を変えて勉強した
 - ・9月からメイン科目とした政治学・国際関係学・憲法を学習、3つとも試験日まで毎日コツコツと勉強を継続した
 - ・準メイン科目とした国際法・行政学は、メイン科目が一通り勉強できてきた 12 月あたりから少しずつ勉強を始めた

1月～3月 1日の勉強時間:10 時間

- ✧ 文章理解は訓練のため1月から継続的に勉強開始(ただ、やはり数的処理に重点を置いて勉強)時事問題は2月中旬あたりから開始(市販の教材を継続的に少しずつ)
- ✧ 政治学・国際関係学・憲法・国際法・行政学は市販の教材の内容をほぼマスター&予備校のより難しい教材(過去問をまとめ)を全て暗記しようとする段階に移る
- ✧ この時期は、重点科目に力を入れるも、それ以外の科目にも少しずつ時間を割く
- ✧ 全体のバランスを取り始めることが重要
- ✧ 重要でない科目は控えめに勉強ないし勉強開始を我慢

4月～6月 1日の勉強時間:8時間

- ✧ 1次試験対策
 - ・本番の試験に向けて総仕上げが重要
 - ・確実性の確保と苦手克服ないし捨て問の選別
- ✧ 2次試験対策
 - ・1次試験終了直後から専門科目の記述問題を毎日数問解き自己採点・分析、関連知識の復習とまとめを繰り返す
 - ・2次試験合格したため特段追加の知識は必要ないと考え問題演習と対応力の確保に力を注いだ
 - ・政策論文対策は色々な問題に触れる、しっかりと文を書けるように繰り返し訓練

3. ワンポイントアドバイス

民間就活・学業との両立

私の場合は民間就活も学校もなかったのですが、ただの推測ですが、試験に関する基礎知識などが全くないような人(試験区分と学校での専攻が全然違うなど)はかなり早い時期から計画的にコツコツと勉強を進めていく必要があるのかな、と思います。

特によかったと思う試験対策法

予備校開催の模試をできるだけ受けて、自分の勉強の進み具合を確認すると良いと思います。また、なるべく最新の教材で勉強をした方が良いです。最後に、大抵の人にとって試験勉強はある程度長期戦になるので、本試験合格に向けた道筋・計画をしっかりと立てて戦略的に勉強することが大切です。

1. PROFILE



- S. O.さん
- 一橋大学社会学部
- 政治国際区分(20 番台/86 名)

珍しい政治国際区分での合格！
登山部の活動との両立を実現！

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間:1時間

- ◇ 公務員試験の科目と関係ある大学の講義を受講し、試験対策に向けた下地を作った
(憲法、行政学、政治学、経済学、国際関係などの講義)
- ◇ 8月中旬から教養区分試験の勉強開始(しかし部活優先のためほとんどできず)

夏休みは部活動にも力を入れていました！
試験勉強はもちろん大切ですが、
学生生活も充実させたいですね！



9月～12月 1日の勉強時間:3時間

- ◇ 早くから対策が必要とされる算数系の科目に取り組み始める(市販の過去問集使用)
- ◇ 数的処理の過去問集を1周して年内に判断推理に移った
- ◇ 社会と理科も大学受験時の参考書で復習開始
- ◇ 2次試験で加算される TOEIC はこの時期に受験した
- ◇ 専門試験は、憲法→政治学の順番で開始(浅い知識では太刀打ちできないと考え、法学部生と同じ教科書と判例集をお供に過去問集を解いた)
- ◇ 択一式の過去問を解き進める傍らに大学の教科書も読み込む
- ◇ 自分の言葉で内容を説明できるレベルに理解を深めることを目標とした

1月～3月 1日の勉強時間:8時間

◇ 1次試験対策

国際関係・行政学・行政法・民法と手を付けていく

暗記事項をルーズリーフノートにまとめた

(専門試験は問題演習の繰り返しと、参考書の通し読みだけではおぼつかないと感じたため)

◇ 2次試験対策

予備校の模試で記述式試験を受験

解答解説を読み込み、どの要素が求められているか確認

2月の官報で試験の委員会の方の名前を確認

それ以外は全て1次試験のことのみに考えて対策した

4月～6月 1日の勉強時間:8時間

◇ 1次試験対策

主に本番に近い形で過去問を解き時間配分・解く順番の確認を進めた

◇ 2次試験対策

択一式の知識をアウトプットができるまで深めるように何度も復習した

試験委員の教授の書いた本を読むようにした

政策論文対策用の市販の参考書を購入して通読、書き方を簡単に把握

時事ネタのおさらい、暗記作業を行なった



3. ワンポイントアドバイス

民間就活・学業との両立

大学3年の冬学期くらいからは、ゼミでの発表や、試験とはあまり関係のなさそうな学部科目のレポート課題などに取り組む際に、公務員試験の受験内容となにかしらで結び付けてやろう、という意気込みで取り組むようにしていました。

特によかったと思う試験対策法

政治学や国際関係など暗記の多い科目で、まとめシートを自作したことは後々の専門記述試験まで生きてきました。

2次試験に関して言えば試験委員の教授の著書を漁ることが効果的だったと思います。

1. PROFILE



- M.H.さん
- ダラム大学歴史学部
- 教養区分(10 番台/145 名)

海外の大学にいながらも、
計画的に勉強を進め、教養区分で
見事に合格！！

2. 試験対策の流れ

8月～9月 1日の勉強時間：3時間

- ✧ 政治国際区分向けに法律・国際関係などを勉強
- ✧ 経済、政治学、憲法、行政学、民法を開始
- ✧ 海外にいたので基本的には独学で進めました

留学をしている時から試験対策を
開始することで、余裕を持って
勉強を進める事ができます！！



10月～12月 1日の勉強時間：8時間

✧ 1次試験対策

毎朝1時間は数的処理を週3日、1時間ほど資料解釈を勉強
文章理解は対策せず
自然科学、人文科学、社会科学(時事以外)もこの時点では手をつけていない

✧ 2次試験対策

国際関係、国際法を開始
専門科目は各週3時間ずつくらい勉強していた

1月～3月 1日の勉強時間:8時間

◇ 1次試験対策

数的処理に関しては上記と同様

資料解釈・文章理解は対策せず

自然科学、人文科学、社会科学(時事以外)を1日ごとに回して1時間くらいずつ

◇ 2次試験対策

各科目週4～6時間くらいずつ勉強した

この時点で財政学と経済学は向いていないことを悟り、捨て問とした

政治国際区分向けに時間を測って過去問や予想問題を解いた

4月～10月 1日の勉強時間:8時間

◇ 5月に入り政治国際区分に落ちる、教養区分にシフト

◇ 教養区分の1次合格後

与えられた資料である白書の読みこみ・周辺政策の調査・グルディス対策を行った

人物試験の練習をする相手がおらず、対策せず(評価はあまりよくなかったのでおすすめしないですが)

3. ワンポイントアドバイス

民間就活・学業との両立

正直あまりうまく両立できていなかった気がしますが、朝と夜の隙間時間をうまく使い、もともとの勉強時間を圧迫しないように心掛けました。生活リズムと勉強時間の調和を心がけることは、長期戦の試験勉強において重要だと思います。

特によかったと思う試験対策法

実際に時間を測り解くことをお勧めします。また、数的処理は毎日することで計算スピードなどが高校の頃に戻った気がします。大学に入り数年間、数学には触れなかったのでブランクを解消することが一番有効でした。

1. PROFILE



- K.W.さん
- 中央大学法科大学院
- 院卒行政区分(160 番台/168 名)

司法試験の論文対策を中心に国家総合職を受験、効率重視！

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間:0時間

※試験対策はまだ開始していませんでした

一般的に司法試験対策をしている場合、
公務員試験の試験勉強の開始時期が
やや遅くなる傾向にあります！



9月～12月 1日の勉強時間:3～4時間

- ◇ 10月頃から、司法試験の論文対策開始(2次専門記述の対策に関係)
(行政区分の試験科目のうち、6科目は司法試験と被っていたため、司法試験対策の勉強しかしていない)
- ◇ 11月から、司法試験の択一对策を開始
(行政区分の試験科目のうち、憲法・民法・刑法は司法試験の択一と被っているため、司法試験対策が公務員試験対策にもなっていた)

1月～3月 1日の勉強時間:9～10時間

※9月から開始した対策を3月まで継続して行なった

※なお、教養科目に関しては、コスパが悪く時間もなかった為、一切手をつけなかった



4月～6月 1日の勉強時間:7～8時間

- ◇ 基本的には、司法試験が終わるまでは上記と同じ
- ◇ 一次試験の3～4日前から、行政法の公務員試験対策本をザッと読み込む
- ◇ 司法試験が5月19日に終わり、翌々日くらいに公務員試験記述式試験の過去問を買い、形式面の確認をしたうえで、出そうな論点のヤマを張った
- ◇ 政策課題討議は、特に対策はしなかった

3. ワンポイントアドバイス

特によかったと思う試験対策法

筆記試験に関しては、記述式試験の過去問を買ったのは正解だったと思います。過去問を見て、今年は憲法で統治が出るだろうなど予想することができました。また、私は人事院面接が初めての面接だったため、民間企業採用担当の友人の話を聞くことができたのはとても良かったと思います。

民間就活・学業との両立

予備校にも行かず、普段の勉強もほぼ一人でやっていたため、就活に関する情報が何もなく苦労しました。特にTOEICは600点とれば15点も加算されるので、事前に受けておけば良かったと本当に後悔しました。両立のコツとしては、正しい情報収集が、作業効率、精神衛生の観点から重要だと思います。

1. PROFILE



- A.I.さん
- 同志社大学法科大学院
- 院卒行政区分(80 番台/168 名)

司法試験→公務員組の中でも
かなり異質な事例です…

2. 試験対策の流れ

4月～8月 1日の勉強時間:0時間

4、5 月は前年度の司法試験に集中しました
その後はなんとなく司法試験の勉強をしながらバイトの日々
「公務員は来年受けてやりましょう」と考えていました
本当にこの時点では総合職の意識は毛ほどもありませんでした



9月～12月 1日の勉強時間:0時間

前年度の司法試験落ちました
その後、同じく司法試験の勉強をしつつ、リスク回避も兼ねて「どこか公務員を受けないと」
思いながら、決して穏やかではない日々を過ごしていました

人生は何が起きるか分かりません！
法律の勉強をしているならば、国家総合職
の受験も念頭に置きながら、就職活動を進
めてみましょう！



1月～3月 1日の勉強時間:0時間

ここも、同じく司法試験の勉強。当然、公務員試験は頭の片隅でした。ただし、総合職から受けなければならないとの決意のもと、「試験日程と申し込み方法」は常に意識しました！！

本当に、申込期間などを忘れないことは、司法試験との併願者にとって、とても大事です！

4月～6月 1日の勉強時間:0時間

- ◇ 国家総合職行政院卒区分試験は司法試験の準備で必要十分
- ◇ 国家総合職試験としての準備は結局することなく当日を迎える
- ◇ 司法試験としては1日平均8時間程度1年間勉強した
- ◇ 総合職試験では試験用六法の配布がなく、解答用紙のおかわりができないことには要注意！
(最低限、総合職試験の試験内容は把握が必要、私は受験時において、どの試験も初見だったので事前準備としてはひどいものだった)(でも受かった)



3. ワンポイントアドバイス

特によかったと思う試験対策法

専門短答・論文試験については司法試験の準備で十分。それ以外の公務員試験独自の試験対策を行ったことはない。国家総合職試験も難関であるため予備校の影響力があると感じた。ただし、予備校に染まるのはどの試験でも賢い方法ではない。予備校との距離感はある程度意識して試験に望むと良い。

民間就活・学業との両立

大学院時代は司法試験の準備のみ、特に国家総合職との両立を図る意図はなかった。司法試験受験生は特に両立できるか気にする必要はない。国家公務員総合職は司法試験が終わってからなんとなく対策すれば足りる。ただし出願と司法試験前の短答試験対策は忘れないように！

一章末コラム①

『その他、公務員試験全体の対策について』

◆ 人事院面接試験

人事院面接試験は、1次試験合格後に各自配布される「面接カード」を記入して、およそ20分間の間で行われる面接試験です。質問内容は「学生時代の活動」「チームでの役割」などの基本的なものが中心となります。多くを語れない短時間の面接にて、面接官の立場に立ち、いかにわかりやすく自分の経験を要約するか、その準備作業は、意外と難しいです。大学で配布される想定問答集の内容を参考に、過去の先輩方の文章に似せて書くのも一つの対策方法です。

面接カードには、一定の「型」があります。そのため、まずは書き方や文量のイメージを持つことから始めると、戸惑うことなく面接カードを作成することができます。

◆ 政策論文試験

総合職の政策論文試験は一般的な議題に関するものが多くみられます。

政策立案を担う公務員として、与えられたいくつかの添付資料を読み解き、出題者の意図を見抜く能力が試されているといえるでしょう。政策論文では、主に「論理的に説明する」ことが要求されます、出題者の意図を踏まえているか、文章が論理的に一貫しているか、などを考慮して点数がつくと考えられます。

対策としては、分量の把握、文章校正のマナーなどを試験直前に確認すれば十分だと思います。なお、政策を考察するときには一般的に、「規制」「行政指導」「補助金」「表彰」「広報」という5つの手段が採られます。

◆ 政策討議(院卒行政区分)

政策討議をざっくり説明すると、政策議論で出題されるような議題について、数人のグループで議論し、その様子を評価される試験です。

試験の内容は、まずA4数ページの資料が配布されます。資料は、日本語の文献2つと英語の文献2つで構成されています。次に、3-40分の時間内に資料を読み解いたうえで簡単な手書きのレジュメの作成を要求されます。これは、箇条書き、トピック出し、短文で容易に自己の認識・意見が相手に伝わるように書くといいです。これが終わると試験監督がレジュメを回収しグループの人数分コピーします。その後、討議で使用される別室に移動し、討議者に全員分のレジュメが配布されます。

別室では討議を行います。順序としては、①討議前の意見発表②討議③討議後の意見発表があります。どれも時間制限のもとに行われます。③は①とは逆の順番で意見発表を求められました。

討議の時は、どのように討議するかが迷うところです。おそらく党派的な対立を前提として議論することになるので、議論の方法としては他方の立場を批判し自己の意見の正当性を主張する方法と両方の立場の良いところを相互確認し折衷的な立場をうまく作り出す議論の方法があります。あくまで個人的な見解ですが後者の方法のほうが良いかと思います。相手方を尊重し、新たなアイデアや共通理解を得る建設的な方向になりやすいからです。

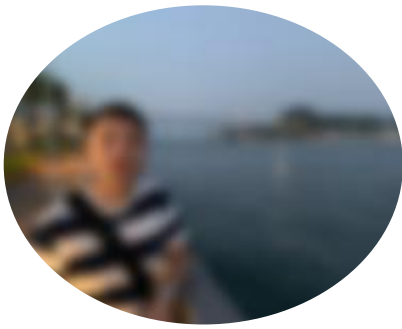
学部生・院生時代、ゼミ・サークルなどでいろいろな議論の機会があります。なかなか効果的な対策方法は浮かびませんが日ごろから意識して「話を聞き」「意見を言う」癖をつけると良いでしょう。

日本の『四季』を守らなければ

Chapter

04

内定者プロフィール紹介

**基礎データ**

出身地：千葉県

出身校：(学部) 慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科

(大学院) 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻
サークル・ゼミ：地元の少年野球のコーチ・国際政治学、外交史ゼミ
趣味特技：趣味は野球です！また旅行が好きです！

Q.どんな学生時代を過ごしたか

塾講師として7年弱、主に高校生の指導をしました。講師の裁量が大きく、自由に考えて指導することができる反面、推薦入試の対応など自分で指導方法を考えつつ周囲も巻き込みながら対応することに苦労しました。生徒の人生設計と一緒に考えるやりがいがあり、責任を感じつつも楽しみながらアルバイトをすることができました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

これまでの人生を振り返ると、小学生のときから屋外で野球に打ち込んでいたため、環境と自分の人生は日々密接に関わっていたと思います。「環境問題」に関心を持った一番のきっかけは、2018年の夏に少年野球の活動をしていた際、熱中症で一人の少年が体調不良に陥り、その後野球をやめてしまったことがきっかけでした。はじめて身近な場所で自然が猛威をふるっている光景を目の当たりにし、脅威を感じました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

国家公務員を志望した理由は、社会が抱える大規模な問題に様々な人々を巻き込みながら解決したいと考えたからです。なかでも環境省を志望した理由は、持続可能な社会づくりを通じて、将来世代に豊かな日本社会を受け継ぎたいと考えたからです。原体験でも述べましたが、近年身近なところで気候変動やその他の環境問題が深刻化していると感じています。自分がこの問題に向き合わなければもう手遅れになってしまう、そういった危機意識があり、公務員として働く決意をするに至りました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

多くの方々とたくさん議論をして、環境問題をはじめ社会が抱える様々な問題に向き合い、それを解決に導く仕掛け人となれることが、なによりの楽しみです(同時に大きな責任も感じます)。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1 日目：環境省、2 日目：経済産業省、3 日目：内閣府

志望度が高い順に回りました。自身の「軸」も意識して官庁は選びました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

入省を決意したのは、2018 年の夏頃です。自分自身、1 度官庁訪問に失敗し、いろいろと就職について悩んでいる時期でした。何に自分自身人生をかけて取り組みたいのか考え抜き、出した答えが環境問題でした。環境省の説明会に参加し様々な政策課題に触れ、徐々に志望度を高めていったことを今でも鮮明に覚えています。職員の方と意見交換をする中で、自分はこの組織に合っているなと素直に感じたのも大きな要因だったと思います。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

常に相手に敬意を払いながら話を聞き、瞬時に自分の考えた意見を面接官にぶつけられた点だと思います。自分がどういう思考をしたのかわかりやすく論理的に説明することを心がけた点も評価されたのかもしれませんが。これまで研究・野球・塾講師の活動などで磨いたコミュニケーション力が活きたと思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

自分は真に何に向き合って人生を送りたいのか、それを考えることが一番大切であると思います。官庁訪問中は、常に自問自答しながら、自分は何をしたいのか、何のために生きているのか、時間さえあれば考えていました。とにかく様々な人に会っていろいろな話を聞くことで、道は開けてくると感じました。来年度以降の志望者の皆様にも是非悔いのない就職活動にしてほしいと思います。



**基礎データ**

出身地：福井県

出身校：（学部）立命館大学法学部司法特修コース

（大学院）同志社大学大学院司法研究科法務専攻（法科大学院）

サークル・ゼミ：空手、バイクサークル・環境法ゼミ

趣味特技：特技は運動全般です。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

学部時代は環境法ゼミに所属し、京都の景観問題のフィールドワークや訴訟当事者の方々のお話を直接聞きました。また、環境問題や環境政策に対する学習をしました。さらに、環境法に関する基礎的な理解を得ました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ（原体験）

私は、田舎で自然に囲まれて大学入学までの時を過ごしました。高校生になっても川に入り網で魚を捕る「わんぱく少年」でした。私の愛する小川の自然環境は、悲しいことに行政主導の工事などにより壊されてしまいました。工事によって濁り、コンクリート張りにされ、最後には暗渠となってしまった時はとても悲しく寂しい思いをしました。今でも故郷から離れ遠きに在りて、その悲しさを思い出すことがあります。そのような体験をした私は自然保護・自然回復について学ぶことができれば良いなと自然と思うようになりました。これが後に法学部に進学し環境法を学んだ理由です。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

私は司法試験を受験しようと法科大学院進学し、一度失敗しました。そのため、特に公務員という選択肢は官庁訪問第2クール目まで、あり得ませんでした。しかし、1度目の受験に失敗し、2度目の年は公務員試験を受けてみようと思い、国家公務員総合職を司法試験と併願という形で受験しました。試験範囲の重なり合いから官庁訪問への切符は簡単に取得でき、いざ環境省に訪問してみると、本当に興味をそそられるお仕事をしていることを教えて頂けました。そして私の志望は官庁訪問中に法曹から環境省職員に変わりました。理由は、かつての自分の想いを「環境省で」果たし得ると思えたからです。そこには危機意識もあり、公務員として働く決意をするに至りました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

私は、環境省は「公務員っぽくないな」と思います。いろいろな人が働き、それぞれの考えを持っているからです。入省の暁には、そのような多様な価値観に触れ刺激を得ることが楽しみでなりません。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

環境への強い関心から1日目環境省。精神障害者グループホームにて、まごころ・情熱をかけてアルバイトしていたことから2日目厚労省に行きました。どの省でも良い評価を受けたので、当初は3日目に社会科見学のために警察庁に行こうとしていたのを農水省に換えました。3日目もぜひ褒められてみようと思ったからです(笑)。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

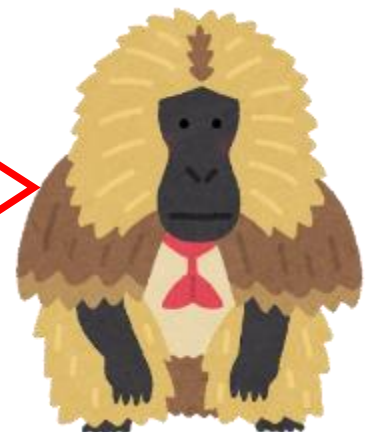
第2クール初日の環境省最後の人事面接にて、とても評価してくださっていることを伝えられ「もうココに決めた！」と心のなかで叫びました。加えて、訪問前は迷いがありましたが、環境省の職員の方が楽しく仕事をしているように思えました。そのため「ここ(環境省)以外無いな」と思いました。もっとも、当初から環境法、環境政策を専攻していたことから初日訪問の時点で「環境省アカンなら、京都に帰ろ」とも思っていました。すなわち、良い評価を頂けるなら環境省に行くというのは、はじめからなんとなく決まっておりました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

対話における「緊張」と「緩和」のバランスの良さ。会話時に相手に与える安心感。政策議論を振られても、その瞬間、自分の頭で考え、表現できる力。頭の回転の速さ。法律に対する順応力の高さ、が評価されたと思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

私は、何も準備していないアホな訪問者です。同期入省が叶いました慶應大学の I 君、北海道大学の Y さんには官庁訪問開始時「私は、事務系なのか?」「今から何が始まるのか?」「どうすればよいのか?」などの官庁訪問一般常識を当日、具体的に教授して頂き大変お世話になりました。こんな私でもなんとかあります!なぜなら私が、自分の頭で考え、言葉にし、さらに官庁訪問を楽しめたからです。来年訪問する方は怖がらないで欲しい!笑顔の先に栄光はあります!頑張りましょう!!



**基礎データ**

出身地:神奈川県

出身校:一橋大学社会学部

サークル・ゼミ:体育会ワンダーフォーゲル部、一橋観世会
食生活誌学(フィールドワーク)ゼミナール

趣味特技:趣味は登山です。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

ワンダーフォーゲル部の部長職です。運動経験のない新入生もいる中、夏の長期縦走合宿へ向けてトレーニングを主導したり、周到な計画を練ったりと、チームの安全を第一に考えて準備を重ねました。8泊9日の合宿を無事に達成させたことは今でも自分の誇りです。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

自然豊かな場所で遊ぶことが多く自然の素晴らしさや脆さ、そして大切さに幼いながらに感じていたというのが、まず1点です。加えて、環境問題について学んでいく中で、このままだと良くないと皆知っているながらも、大多数の人は行動をなかなか改められていないという現実を痛感してきました。「良くない」ことを見てみぬふりをする事への憤りと、自分も巡り巡って加害者の一人であるという罪の意識と。それらの思いから少なくとも自分は環境問題に正面から取り組んでいきたいと考えるようになりました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

自分の場合は環境問題を仕事としたいという思いが先行していたので、「環境省で働く」→「そのために国家公務員になる」といった志望順で動いていました。環境問題の解決への最大の障壁が個々人の功利的な判断であるとすれば、「環境にいい」が何らかの形で「利益になる」と思ってもらう必要があると思っています。それを現時点で最も実現できるのは規制や誘導というツールを行使できる行政だ、と考え環境省を志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

「2050年までに CO₂排出量80%削減」という壮大な目標の達成を当事者として迎えることです！

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:環境省、2日目:農林水産省、3日目:国土交通省
環境問題に取り組む機会が多い順番で選びました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

官庁訪問をする中で、農水省や国交省でも自分のやりたいことが出来るのでは、と揺らいだこともありましたが、3省庁で面接を重ねるうちに各省庁が最終的に目指している理念の違いを再認識し、第2クールを終えた時点では、自分には環境省しかないな、と改めて入省を決意することができました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

環境省への熱意は数々の面接で評価されていたのではと考えています。あとは、どんな面接でも比較的物おしせずリラックスして臨んでいた点、切り返しを素早くかつ論理的にかつ端的に行う工夫をしていた点も評価していただけたのではないのでしょうか。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

1日に面接が6回も7回もあるのか、と官庁訪問に戦々恐々していましたが、実際面接自体は「楽しめた」という感想が強いです。辛いのは自分の進路について何度も何度も揺さぶられたこと。

自分が本当に一生をかけられるものはなにか、について深く考えることのできる貴重な2週間だと思うので、志望者の皆さんもどうか恐れずに、前向きな気持ちで臨んでみてください。



**基礎データ**

出身地：大阪府

出身校：首都大学東京 都市教養学部法学系政治学コース

サークル・ゼミ：管弦楽団（オーケストラサークル）、国際政治ゼミ

趣味特技：趣味はバイオリンです。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

学生時代はオーケストラサークルで演奏会に向けてひたすらバイオリンを練習していました。また、国内の民間 NGO での長期インターン、スウェーデンへの交換留学などを経験しました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

飢餓や貧困をテーマとする民間 NGO で国内啓発のインターンをした際に、SDGs や気候変動、食品ロスなどの問題を扱い、世界や日本の現状を知ったことがきっかけです。小さい頃から漠然と国際問題に関心があったものの、理不尽な環境の中で生活せざるを得ない人たちのことを知り、改めて環境の重要性を感じました。また、留学中に受講した CO₂ 削減の模擬国連会議の授業で、欧州の留学生たちの意識の高さに影響を受けました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

留学中、自分の国が嫌いだからに帰りたくないという他国の留学生の言葉を聞いて、私は純粋に日本が好きだと感じ、将来にわたって誰もが健康で安全に暮らし、自分の国を好きでいられるような社会を実現したいと思い国家公務員を志望しました。また、NGO や民間企業では人材・資金・利潤追求などの制約があると感じたのも志望動機の一つです。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

環境を軸にして多種多様な方々と、様々な側面から社会問題に関わることができるのが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:環境省、2日目:農林水産省、3日目:なし
志望度順です。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第2クール1日目に環境省への入省を決意しました。第1クール、第2クールを通して多くの職員の方にお会いさせていただき、自分の関心分野に関わるのはやはり環境省しかないと感じました。また、働く職員の方々も多種多様で尊敬を感じる方々だからです。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

学生時代の経験や環境省の説明会に参加して得た環境行政への思いを、自分の言葉で話すことができた部分だと思います。また、現職のIT企業での業務内容(官公庁向けシステム開発)やIT技術に興味関心があることについても良い印象を持って下さる職員の方が多かったと感じます。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

社会人2年目にして働きながらの官庁訪問だったので、仕事との切り替えを意識しなければならなかったり、慣れない周りの雰囲気気後れしていて正直なところまったく自信がありませんでした。しかし、既卒でも社会人でもやっぱり環境省で働きたい、という思いを整理してぶつければ評価していただけるのだと感じたので、挑戦するのに遅すぎることはないと思います。



**基礎データ**

出身地：広島県

出身校：同志社大学政策学部政策学科

サークル・ゼミ：社交ダンス・開発協力ゼミ

趣味特技：趣味はダンスです。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

ウガンダでフィールドワークを行ったことです。世代や文化、言葉が違う様々な人と交流し、発展途上国の課題と向き合い、調査を行いました。コーヒー農園の持続可能性に関する調査の担当で、ウガンダ東部のコーヒー農園で調査していました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ（原体験）

最も環境に対して危機意識を持ったのはウガンダを訪れたときでした。ゴミのポイ捨てが横行し、処理したとしても野焼きでした。また、ゴミをさらに捨てたり、触ったりして遊んでいる子供を見たときは衝撃を受けました。エコツーリズムに関する視察においても環境に配慮しない産業化と失われていく豊かな自然にもどかしさを感じました。環境が人々の生活にいかに密接に関連し、生活の豊かさに影響を与えるのかを肌で感じ、環境とのつきあい方について考えるきっかけとなりました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

私は日本の持続可能性を高める仕事をしたいと考えていました。大学でSDGsをテーマにゼミで開発学を学んでおり、環境保全に関わるトピックも扱ってきました。環境問題はSDGsの多くのゴールと関連しており、日本での生活が真に豊かであるためには環境への配慮が不可欠であると感じました。人々の生活と密接に関わる環境を、環境行政に携わることで改善し、日本及び世界の環境を持続可能にしていきたいと思い、志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

環境という軸で社会課題と向き合えることが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:外務省、2日目:環境省、3日目:公安調査庁

幼い頃から外交に関わりたという思いがあり、1日目は外務省を訪問しました。環境にも関心があったため、2日目に環境省を訪問しました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

入省を決意した時期:第1クール終了時。官庁訪問を通じてたくさんの原課の方とさせていただき、自分の適性を考えることが出来ました。環境省で働いている人の国益に対する考えが自分の考えと合致していると感じ、やりがいを持って働けると確信しました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

原課面接で受け身になって話を聞くだけでなく、たとえ稚拙であっても自分の頭で考えて発言していたところが評価されたのだと思います。また、人事の方からは人当たりの良さも評価されていました。自分が社会問題に対しどう考えどう振る舞う人間なのかを評価されていると思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

周囲の民間の就活を行っている友達は、自分よりも早く内定をもらっており、焦りを感じることもあるかもしれませんが、自分は国家公務員になりこんなことをしてみたいのだ、という強い意志を持ち勉強に励んでください。つらいことがあったとしても、目標に向かう気持ちがあなたを鼓舞してくれるはずです。その気持ちを貫いた方々と一緒に働けるようになる日を楽しみにしています。



**基礎データ**

出身地：東京都

出身校：千葉大学理学部生物学科

サークル・ゼミ：体育会弓道部、植物研究室

趣味特技：サッカー・弓道等、スポーツが好きです。最近ジム通いを始めました。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

私は大学から弓道部に入部しました。高校からの経験者に比べると実力差があり、その差を埋めるため正規の練習以外にも、自主練や技術書などを読み込み、人よりも多く練習をつみました。その結果、3年生の公式戦では全試合スタメンで出ることができました。部活漬けの学生生活でした(笑)

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

高校生の時の農泊や大学生の時の地方創生インターンシップなど、東京にいながらも地方と関わる機会が学生時代よくありました。そこで地方の美しい自然に癒され、日本の自然はこの国の財産であると感じました。ただ大学生の時の海水浴場でのゴミ拾いボランティアでは、某県の海岸がゴミで溢れかえっていることを目の当たりにし、良好な自然を守りたいと思うようになりました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

大学年生の時に授業の一環で、海水浴場でゴミ拾いボランティアをしていました。ポイ捨て禁止の普及啓発活動も同時に行っていましたが、4年間ゴミの量は変わることはなく、人々のモラルに訴え環境問題を解決することの難しさを実感しました。制度や法律をつくり国民が環境問題に取り組まなくてはいいけないような社会を作ることが環境問題を解決するうえで重要だと感じ環境省を志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

様々なバックグラウンドを持つ先輩や同期と働けることがとても楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:農林水産省 2日目:なし(休暇日) 3日目:環境省

農林水産省、環境省どちらにも行きたくて直前まで悩んでいました。最後は直感です。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第1クールの午後にある職員さんから「環境省は業界をほとんど持っていない。それは政策を立てる上でいつも一つ遠い。でも業界がないからこそ本当の理想を言える。本当の正義を貫ける」と言われ、環境省で働くことのイメージがつかしました。また原課面接で職員さんが自分の仕事を楽しそうに話している姿を見て、こんな先輩のもとで自分も働きたいと思うようになりました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

官庁訪問を楽しんでいた所だと思います。霞が関のキャリアの人達が、自分のために時間を割いて、お話をしてくださること、自分を評価してくれること、待合室で会う優秀な学生、全てが自分にとって刺激的でした。仮に官庁訪問で落ちたとしてもすべてのことを吸収してやろうという思いが面接官に伝わったのかなと思います。

Q.全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

大学3年生の夏から勉強を始め、この1年間国家総合職で内々定を貰えるのかとても不安でした。こんな奴が行政官になれるわけないと、諦めかけた時期もありました。でも、「男なら一度決めたことは最後までやり切る、逃げない」、そう自分を奮い立たせ最後は嬉し涙で終えること出来ました。総合職を目指す皆さん、絶対に諦めないでください。自分で可能性をゼロにしないでください。頑張っていたらきっといいことがありますよ。心から応援してます!!!



**基礎データ**

出身地：兵庫県

出身校：（英国）ダラム大学 歴史学部

サークル・ゼミ：柔道部

趣味特技：読書・スノーボード・模型製作

Q.どんな学生時代を過ごしたか

したいことだけを学べる機会だったので、勉強を頑張っていました。また、したことのないスポーツに挑戦したく、柔術の練習にも励んでいました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ（原体験）

小学生の頃を山と海に挟まれた田舎で過ごし、夏になると虫や魚を捕まえ、冬は山でスノーボードをする生活でした。自然と人が共生する環境で育ち、動植物への愛着を覚えました。雨の後、山が崩れることなどから、人は自然に生かされていることを実感する一方で、林業を営んでいる人が近くにいる、人の手が入らないと維持できない野山があることも学びました。海や山と触れ合うことから、それらと人間の間を関係性を考え始めたのがきっかけです。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

就職先を探すにあたり、何か社会を良くする仕事をしたい、と漠然と考えていました。国家公務員であれば民間などと連携して分野横断的に幅広く社会と関わることができ、またより広く社会、人のためになる仕事をできると考え志望しました。また、これからの社会にどういった変革が必要かを考えた際に、人間のためだけを考えた政策でなく、人間のことも他の生物のことも考えて、それらが住みやすい環境を作り守る政策を立てることが、人間にとっても最善なのではないかと考えました。そのような仕事がしたいと環境省を志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

50年後、100年後を見据えて働くので、そのタイムスパンの長さが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:外務省、2日目:環境省、3日目:なし
自分の志望度に照らして、総合的に判断しました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第3クールです。第1クール、第2クールで相当多くの職員の方の会わせて頂き、環境省の仕事が具体性を帯びたことで、ここならしたい仕事ができる、仕事にやりがいと自信を持てる、と思いました。また、他の受験者の方や働いている職員さんの雰囲気など、総合的に自分に合っていると感じたからです。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

自然環境への愛着と、好奇心の強さ、それが高じたフットワークの軽さとコミュニケーション能力の高さ。また、職員の方のお話を拝聴するのが楽しく、その気持ちが伝わったのだと思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問前は不安と緊張に苛まれていましたが、いざ始まってみると具体的な職務の話を沢山聞けて「楽しい」という気持ちのほうが強かったです。面接用に作った自分ではなく、ありのままで挑み、内々定を頂きました。同期も個性が光りすぎるくらいのメンバーで、素の自分を出して楽しんで挑むことで、相性がよく全力を発揮できると思います。



K.M.のプロフィール(政治国際区分)

自分を表す漢字: 読万卷書 行万里路



基礎データ

出身地: 神奈川県

出身校: (学部) 早稲田大学社会科学部国際関係学専攻

(大学院) 北京大学大学院中国学修士 政治学/国際関係学専攻

サークル・ゼミ: 国際協力・平和構築ゼミ

趣味特技: 趣味はバックパック旅とダンスです。

イランなど中東がおすすめです。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

勉強と経験を両方して、色々なことに挑戦し続けたことです。米国と中国への留学や海外の国際会議などへの参加で勉学を深めた一方、国際機関や国際 NGO での長期インターンや数多くの国を訪れたバックパック旅で経験を深めました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

幼い頃から、漠然と国際的な問題に興味があり、その一つとして環境問題にも関心がありました。大学入学以降、環境について学んだり、留学やバックパック旅などを通じて実際に世界の様々な環境問題を目の当たりにする中で、環境に対する関心がより強くなりました。特に、遠い存在に感じられていた環境問題を海外で直接的な問題として経験したことが契機でした。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

私には日本の平和と発展に貢献したいという思いがあります。色々な貢献方法がある中で、環境はあらゆる事柄の重要な基盤だと思いました。例えば、環境問題が政治経済的な国際紛争になり得ることもあれば、単純に人々の健康を害することもあります。また、環境はこれからの世界における人類の最重要課題の一つでもあります。私は環境というグローバルイシューに取り組んで、世界にも貢献がしたいと思っています。そのため、環境について包括的に取り組むことができ、なおかつ日本と世界に貢献できる環境省を志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

環境というグローバル課題に対して、日本の行政官として、国内外で様々な側面から取り組んでいくことが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:外務省、2日目:私用で行けず、3日目:経済産業省（環境省は第2クール1日目に初訪問）
外務省と経済産業省は訪問日が早くないときついと聞いたことがあったのでこの順番です（経産省は3日目でしたが）。第2クール1日目からは前から興味があった環境省に思い切って転換しました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

入省を決意した時期は、第3クール終了後です。入省を決意した理由は、まずは環境に対して以前から強い興味があったことがあります。それに加えて、官庁訪問で様々な職員の方々と話す中で、多様性を受け入れてくれる風土や組織としてのある程度の柔軟性や自由さが感じられました。また、自分の経験や強みも活かそうだと感じました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

これまでの経験から理解してもらえたであろう国際性や行動力、現場力、やり抜く力、言語力などが評価されたのだと思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問でどこと縁があって、どこにうまくハマるかは最後までわからないので、志望省庁がはっきりと固まってもなるべくいくつかの省庁を受けた方がいいと思います。あと、どこの省庁を受けるにしても、専門知識はないよりはあった方が良くと思いますが、合否の核心ではないと思います。もっと重要なのは、あなたを採りたいと思わせる総合的な「人間力」を示すことなのではないかと思っています。





基礎データ

出身地：埼玉県

出身校：一橋大学法学部

サークル・ゼミ：ESS、バトミントンサークル・国際関係理論ゼミ

趣味特技：特技は水泳です。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

学生時代に頑張ったことは、留学中に日本語教室を立ち上げ、教師を行ったことです。周りの人と協力して、授業を作り上げ、一定の人数に週一で教え続けられたことは学んだことも多く、いい経験になりました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

タイに引っ越した時に、日本での生活が豊かで、排気ガス、ごみの処理、水の浄水等の細かいところまで意識が向いていることに気付き、違いを感じました。更に、その時に住んでいたところの横の森が破壊され、新しいマンションが立てられる過程を見たことで衝撃を受け、それまで感じた違いとも合わせて、地球環境や自然環境に関心を持つようになりました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

国家公務員の志望動機は、日本と世界全体を意識して働きたいという思いから志望しました。その中でも、私たちが現在享受している生活を将来に残したい、その中でも地球環境を守ることで残したいと思い、環境省を志望しました。これまでの経験から、地球環境の保全の取り組みは危急の課題であると考え、自身も環境問題に取り組みたいと思うようになりました。また、やりたい仕事を考えた時に、マイナスをプラスにしたいという想いがあり、環境省の持つ想いと合うと確信したからです。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

環境という軸をもって、様々な問題に取り組むことが出来ることが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:外務省、2日目:環境省、3日目:なし

現在の生活環境を守ることに根本的な興味があり、そこに自身の専門を加味した為です。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第2クールの2日目。1クール目の時点で、様々な方との面接を通して、自分が知らなかった仕事を知り、どの仕事にも興味を持ったことで、環境省の志望が高まっていました。その中で、2クール目に改めて、自分自身がやりたいことを明確にしながら職員の方々の考えを聞き、自身もここで働きたい、やりたい事がある、と具体的にイメージできるようになり、決意しました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

面接のなかで、バランス感覚をもって様々な角度から冷静に考え、それをきちんと自分の言葉でいうことが出来たところが評価されたのではないかと考えています。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問やそれまでの準備は大変ですが、多くの活躍されている方々のお話を聞くことができ、自分がやりたいことを改めて考えることが出来る非常に有意義な時間でした。
自分や省庁の事を決めつけずに、積極的に様々な話を聞きに行くといいと思います。



**基礎データ**

出身地：長崎県

出身校：北海道大学文学部人文科学科

サークル・ゼミ：アイスホッケー部マネージャー

趣味特技：ランニング、紅茶

Q.どんな学生時代を過ごしたか

4年生の冬まで部活動に打ち込みました。深夜の練習や遠征も多く、公務員試験の時期には勉強との両立がなかった時期もありましたが、そこで培った体力と精神力が官庁訪問で役に立ちました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

地方の都市に生まれ、自然のなかで成長してきました。小さい時から庭や森で遊んだり川や海で釣りをしたりして育ったことで自然や動物が好きになり、それらに関わる仕事がしたいと漠然と考えていましたが、自然破壊や温暖化の影響を身近に感じるようになったことで、自分を育ててくれた自然環境を守り、未来の世代にも伝えていきたいと考えるようになり、それに仕事として携わることができる環境行政に興味を持ちました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

人々の生活や社会の基盤を支えたいという思いから国家公務員を志望しました。気候変動や自然災害の脅威を身近に感じるようになった近年の状況に接し、様々な社会経済活動や他分野の行政活動の最も基本となる自然環境、生活環境を守り整えることで、その上に成り立つよりより社会づくりに貢献したいと考え環境省を志望しました。また、自然や環境に携わる仕事がしたいとずっと考えていたため、他省とも比較したときに、環境を軸において仕事をできるのは環境省だ！と思い環境省を選びました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

クールビズのように、社会の新しい「あたりまえ」を自分たちでつくりあげることが楽しみです！

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目：環境省、2日目：農林水産省、3日目：人事院
単純に志望順で訪問しました！

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第2クールの3日目です。(第2クールの2日間を終え、3日目の人事院は辞退し悩む時間を取りました)環境省を目指して官庁訪問に臨みましたが、2クールを通じて農水省とかなり迷いました。しかし、公務員を目指した初心に帰ったときに、自分が本当にやりたいことができるのは環境省だと気づき、決断しました。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

自分が決めたことを貫く意思の強さだと思います。成果が見えにくい環境行政においても必要な、自分が目指しているものを信じ続けることができる芯の強さが評価された(のかな?)と思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問は確かにつらいこともたくさんありました。しかし、共に頑張る訪問者、面接をしてくださった職員の方、ひとつひとつの出会いがあったからこそ自分が大きく成長した、と官庁訪問を終えて感じています。官庁訪問という貴重な機会を存分に楽しみ、魅力あふれる環境省にもぜひ訪問してください！



**基礎データ**

出身地：埼玉県

出身校：慶應義塾大学 法学部政治学科

サークル・ゼミ：日仏学生フォーラム・西洋外交史ゼミ

趣味特技：自然散策、思想、アコギ、猫、ワイン

Q.どんな学生時代を過ごしたか

日仏学生フォーラムで2年間にわたり、日仏友好の架け橋を築きあげたことです。私はフランス語の響き、文学、哲学の世界観に惹かれ、彼らの考え方を現場で知ることを目指し、約2週間のプログラムを運営しました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

20年間を振り返り、自分の愛する祖国は「自然、情緒豊かな日本」だと分かったこと。原体験としては田園地帯で自由に育てられた少年時代や、高校時代のフィンランド国際交流があります。現地での「花崗岩の上に薄く土壌が乗っているだけなので、生育する樹木も限られる」という説明と、長い距離を移動しても変わらない北欧の景観を脳裏に焼き付け、より一層、日本の環境・生物多様性に感謝の念が芽生えました。自然災害も伴うが、それも含めて「日本」なのだと捉えました。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

私が国家公務員を志望したのは「仕事」に関する自己分析がきっかけでした。慌ただしい就活の潮流の中で、「社会に出る」「仕事をする」とは何を意味するのか、より多くの「幸せ」に貢献できる仕事は何か、自分の価値観を見つめ直した結果、幅広く業務を担い、生活の礎となる公務員という仕事に辿り着きました。一連の学生生活を通じて自然豊かな祖国を実感した私は、社会経済と一体不可分な環境問題と向き合い、共に歩む決意を固め、環境省を志望するに至りました。地球規模の協力や国内政策を通じて、国内外を問わず環境問題に取り組み、風土を後世に繋げる環境省こそ、私の目標を追求できる場所だと考えました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

環境問題を通じて「社会の仕組み」「問題に取り組む姿勢、手段」を知ること、そして膨大な仕事の中、どれだけ協力して、効率的に働ける行政官に成長できるかが楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:外務省、2日目:環境省、3日目:なし

大学の専門分野が活かせる外務省に興味を持っていたので初日に訪問、志望動機を素直に語れるものの、説明会への参加があまりできなかった環境省を2日目に訪問しました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

入省を決意した時期は、官庁訪問第1クール終了時です。現役職員の方と長い時間面接する中で、これからの環境行政に対する可能性、仕事内容に強く惹かれました。自分が生涯をかけて全うしたい仕事は何か、環境省でそれが実現できるかなどを熟考し、今後の人生を考えた上で入省を決意しました。また自分と「肌感覚」が合っていると感じたことも決断する上で重要だったと思います。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

原課面接にて、全く知らない分野の質問でも「自分ならこうする」と懸命に答えたことや、逆に「自分はこう考えるが、現場ではどうなのか?」「今のお話を実現するにはこういった弊害もあるのでは?」と、気になったことを積極的に質問したこと。相手の質問に対して常に意見を複数提示したこと(視野の広さを示したこと)。服装、所作(名刺の受け取り方、エレベーター作法など)が乱れていなかったこと。緊張せず、会話を楽しめたこと。省庁が求めている人柄(言葉で説明しにくい)に合っていたことです。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問で見られているのは「仕事、省庁への想い」だと思います。自分の原体験、人生を一度振り返り、生涯をかけて何を成し遂げたいのかを決める作業が大切です。他人の意見も参考にはなりますが、最後に決めるのは自分自身です。地球規模で拡大する環境行政に取り組み、共に「自然豊かな日本」を後世に残していく、そんな志を持った皆さまと一緒に働ける日が来ることを、心待ちにしております。



K.W.のプロフィール（院卒行政区分） 自分を表す漢字：志



基礎データ

出身地：神奈川県

出身校：(学部) 中央大学総合政策学部政策科学プロフェッショナルコース
(大学院) 中央大学大学院法務研究科法務専攻（法科大学院）

サークル・ゼミ：サッカーサークル(マネージャー)・環境法政策ゼミ

趣味特技：趣味はスポーツ観戦(バスケット、野球、サッカー、バレー、テニス)
特技は水泳です。

Q.どんな学生時代を過ごしたか

学部時代はゼミを3つ掛け持ちしながら、他学部履修も積極的に行い、サークルの練習にフル出席し、アルバイトを2つ掛け持ちする等、とにかく全力投球で様々な経験を積むことに力を入れていました。大学院では逆に、法律の勉強だけに注力していました。

Q.環境問題に関心を持ったきっかけ(原体験)

私は神奈川県の海沿いの地域で生まれ育ったため、幼少期から海岸の汚さは見慣れたものでした。どこの海もこんなものなのだろうと思っていましたが、小学校で沖縄の海の写真を見たときに衝撃を受けました。この頃から、海洋汚染問題に関心を持ち始めたのだと思います。

Q.国家公務員、環境省の志望動機

人を助ける仕事がしたいとの思いから弁護士を志していましたが、これまでの経験を通して、事後的救済の限界や委任契約による活動範囲の限界を痛感しました。そこで、未然防止のために働くことができ、なおかつ対価関係なく最後まで国民に寄り添うことができる国家公務員の仕事に関心を抱きました。なかでも環境省は公害対策に端を発して創設され、二度と同じ過ちを繰り返さないよう、被害者対応を含め様々な角度から尽力し続けており、これこそが私のやりたかった「人を助ける仕事」だと思います。環境省を志望しました。

Q.環境省で働く上で楽しみなこと

様々なバックグラウンドをお持ちの方々と一緒に働けることが今からとても楽しみです。また、業務の幅がかなり広いので、その中で自分がどれだけやれるか、どれだけ自分の能力を高められるか、という点も楽しみです。

官庁訪問体験記

Q.第1クールに訪問した官庁

1日目:公安調査庁、2日目:環境省、3日目:なし

公安調査庁は謎が多かったため、初日に行けば志望度の高さを示すことができ、より深い情報をお聞きできるのではないかと思います、このスケジュールで行きました。3日目も訪問する予定でしたが、2日目を終えて環境省へ行きたいという気持ちが固まったため、3日目は2日目の反省に充てました。

Q.環境省への入省を決意した時期とその理由

第1クールの帰り道で入省を決意しました。原課面接でお話いただいた内容がとても興味深く、やってみたい！と強く思えたことと、面接官や説明会で登壇されていた方々の雰囲気がとても良く、一緒に働けたら楽しいだろうと心から思えたことが、主な理由です。

Q.自身が評価されたポイントは何であったと思うか

環境省で働きたいという気持ちを示すだけでなく、環境省で働くことになった場合に自分の能力をどう生かせるか、また、自分にはどんな能力が足りないか(それを補うためにはどうすべきか)、ということ具体的にイメージしながら臨んだ点は評価していただけたと思います。

Q. 全体の感想、官庁訪問を振り返って来年以降の志望者へのメッセージ

私は試験の席次が非常に悪かったため官庁訪問も不安だったのですが、環境省の方々は席次など気にせず、最後まで「私」という人間と向き合ってくださいました。なので、たとえ席次が悪くても落ち込みすぎず、前向きに官庁訪問に臨んでください。また、官庁訪問は職員の方々から直接お話を聞ける貴重な機会ですし、どんな些細な疑問にも答えていただけるので、私はとても楽しく感じていました。みなさんも、変に自分を作らず、ありのままの自分で臨み、職員の方々との貴重な時間をぜひ楽しんでください！



一章末コラム②—

質問：官庁訪問や説明会にて、印象に残ったことは？

人事面接に、企画官
が来ていたこと・・・！

他省庁との比較ができた、
合同説明会の内容が印象
的だった

資料を紙で配布せず、
デジタルデバイスを使用して
説明会を開催していたこと

説明会に参加出来ていなく
ても、官庁訪問で真摯に選
考して貰えたこと

水俣病関連の規制など、
将来のために今やるべき事
を常に考えている所が、印
象に残った。

春頃の事務次官講演
の豪華さに驚きました

全ての説明会を通して、登壇された方
が全員、環境省の業務を楽しんでお
り、入省から時間が経っても変わらな
い熱意を肌で感じたことが記憶に残っ
ています



手遅れになる前に

「世界」^{みんな}で手をつなごう

Chapter

05

官庁訪問・面接対策まとめ

(参考)官庁訪問のある1日の流れ

	訪問先	内容	所要時間
1	入口面接（人事）	志望動機と関心のある政策分野について	20分
2	地球環境局（原課）	水俣病や化石燃料によるCO2排出への対応等について	100分
	昼食（30分）		
3	秘書課面接（人事）	志望動機や関心のある分野について詳しく。原課面接がどうだったか。	60分
4	地球環境局（原課）	パリ協定などの国際交渉について	90分
5	水・大気環境局（原課）	石綿（アスベスト）問題への取り組みについて	90分
	夕食（40分）		
6	自然環境局（原課）	SDGsやG20等における交渉について	90分
7	出口面接（人事）	1日の振り返りと評価について	10分

[語彙説明]

- ・入口面接
官庁訪問の初めに、人事担当の職員と行う10分程度の面接です。
主に業務説明で訪問したい課や関心のある分野を伝える時間となっています。
簡潔な志望動機を聞かれることもあります。
- ・原課面接
職場の雰囲気や仕事内容の理解を深めるため、実際に職員の方からお話を伺うことができます。こちらからの質問にも応答して頂く機会があるため、自分の聞きたい話を展開することも可能です。同時に、会話のキャッチボールを通じた人間性も評価されていると考えられます。
- ・人事面接
人事課の職員と行う面接で、評価対象となる重要なものです。
主に志望動機や学生時代の活動について、じっくり深掘りされます。
環境省の人事面接は比較的和やかな雰囲気にて実施されるため、緊張せずに自然体の自分で臨むのが良いと思います。

- ・なぜ、国家公務員になりたいのか
- ・なぜ、民間企業ではないのか
- ・公務とは何か
- ・〇〇省(1 日目)の志望理由
- ・他の志望官庁と、その訪問順の理由

- ・その 3 つの官庁を志望している理由
- ・環境省の職務で何に興味があるか
- ・環境省で具体的に何をやってみたいか
- ・環境省を志望した契機となる原体験は何か
- ・総合職として働いていく覚悟の有無

志望理由

官庁訪問で 聞かれた質問例

人間性

これまでの経験

政策

- ・周囲からどのような人だと思われるか
- ・困難に直面した時の対処法は？
- ・性格の合わない人とどう接するか
- ・リーダー的な役割を果たしたことがあるか
- ・最近読んだ本は何か

- ・学生時代に頑張ったこと、そこから得たことは何か
- ・今の学部、専攻でなかったらどんな職業につきたかったか
- ・大学(院)時代のゼミ研究テーマについて&その研究結果は何か
- ・これまでの経験で最も苦労した経験
- ・自己 PR してください
- ・ゼミ活動での役割は何か

- ・環境問題に取り組む際に危機感を煽る or 利益になることを示すアプローチの内、どちらが良いと思うか
- ・環境問題に興味のない人に環境を意識してもらうにはどうすればいいと思うか
- ・なにをもって環境問題が解決したといえると思うか

- ・具体的にどのような政策を打ち、何をどう変えたいか。
- ・環境問題に取り組む姿勢とは何だと思うか
- ＊原課面接では具体的な環境政策の知識の有無を問うより、君ならどう判断するか、など思考プロセスを問う質問が多かった

持ち物

- ☆ 訪問者カード(写真付き)
- ☆ 筆記用具
- ☆ ノート
- ☆ 説明会でもらった資料など
- ☆ うちわや扇子

訪問中の服装

半袖シャツ、ジャケットなし
クールビズ推奨です！！

訪問中の宿は

- ・夜遅くの帰宅に備えて駅近で治安の良い所
- ・2週間連泊ができる所
- ・コインランドリーが宿の近くにある
- などを念頭に決めました

訪問に向けた準備

- ◎ 自己分析
- ◎ 内定者ノートを熟読
- ◎ 事前の説明会などで頂いた資料に目を通しておく
- ◎ 想定問答集を考えておく
- ◎ 身嗜みを整える
- ◎ 参考程度に環境白書を読む
etc...

休日の過ごし方 by 地方出身者

- ◎ 映画鑑賞、東京散策(上野動物園、浅草 etc...)
- ◎ 友達とゲーム。美味なご飯とお酒。趣味に没頭！
- ◎ カフェで官庁訪問を振り返り、考えを整理
- ◎ いつ帰るか分からないため友達に声をかけられず一人で遊んでいた.....

参考:令和元年度 環境省官庁訪問 訪問者カード

令和元年度 環境省官庁訪問 訪問者カード

試験区分 (該当に○)	政治・国際、法律、経済、 教養、院卒（行政、法務）	受験番号 (合格年度)	[]年度	初来省日 月 日	No.					
ふりがな		住所	〒							
氏名										
性別	男 ・ 女	連絡先	TEL:							
生年月日	西暦 年 月 日生 (歳)		携帯:							
			PCメール:							
			携帯メール:							
写真 (裏に氏名を記入 して貼付) サイズ 4 × 3										
						高校卒業	西暦 年 月	高校 卒業		
						以降の略歴	西暦 年 月	大学 学部	学科 卒業・卒見	
						西暦 年 月	大学院	卒業・卒見		
(前職があれば)										
学業（専攻テーマ、ゼミ、論文タイトルなど）				趣味、特技						
課外活動（部活、サークル等）とそこでの役割 (高校) (大学)										
環境省の志望動機と関心のある環境政策の分野										
これまでの人生で最も力を入れて取り組んだ経験、苦労した経験										
最近の関心のあることとそれに対する自分の考え（専攻や環境関係以外）										
訪問省庁： 初日 2日目 3日目										
民間企業等その他併願先の状況（内定の有無についても明記）										

参考までに、令和元年度の訪問者カードを掲載しておきます。

なお年度により、項目が変更される可能性がありますのでご注意ください。

それぞれの「視点」

それぞれの「思い」

Chapter

06

内定者による座談会

インターン・OBOG 訪問者 海外留学経験者 地方出身者

対談 インターン・OBOG 訪問について

(1) インターンについて

対談者の紹介



つつじ(C.Y.さん)
長崎県出身、北海道で歴史を学ぶ。



水仙(A.I.さん)
福井県出身、京都のロー生。公務員試験初心者。

・インターンって何だろう？

水仙 インターンってどんな感じかな？

つつじ 学生主体のグループワーク、職場体験ともう一つの形式があった。環境省は職場体験型だったよ。

水仙 いつ頃参加する感じ？どれくらいの期間？

つつじ 時期は3回生の9月12日から21日の間に行ったよ！期間の長さはこちらから希望を出すことができ

たけど、私は2週間で希望した！

水仙 何か参加までが難しいとかはなかった？

つつじ 省庁系のインターンは大学を通す必要があって、手続面がすこし複雑で大変かな。でも環境省は自分で行きたい課の希望を選べるところがすごくいいなと思う！

環境省は職場体験型 期間は約2週間で調整可 成績要件不要で大学を通しての申し込み

・インターンと説明会の違い

水仙 インターンと説明会はどんなところが違うのかな？

つつじ 職員さんとの距離がインターンは非常に近い！時間も長いし。一緒に働いているような感じ。現場で働いている人の様子とか悩みを直接見ることができた！この

LIVE 感は説明会ではないね！

水仙 どんな質問できた？？

つつじ 行政官の忙しさの程度とか、子育ての話とか聞けたのは本当に良かったよ！

インターンは説明会と違い距離がとにかく近い 現場の生の情報を取得！

・実際にインターンで何を感じたか？苦労したことはあるか？

水仙 インターンでは何をしたの？

つつじ 私はもともと興味があった環境アセスメント課に行っちゃったよ！その課の話はもちろん、担当された職員の方のこれまでのお仕事のお話も聞くことができた。実際の仕事にも触れることができて、たくさんの情報を得ることができたと思う。

水仙 どんなところが良かった？

つつじ 環境省のインターンは「作られた」感じがなかった、「そのまんま原課」って感じ。実際に働く自分を想像できるくらい現実感があってよかった！あと、業務を教えて

くれた総合職の方にすごく良くしてもらって、『この人たちと一緒に働きたい！』と強く思ったな。

水仙 それはすごい！インターンで実際に職員さんの近くで過ごしたからこそその感想だね！逆に苦労したことは？

つつじ 実際の業務が難しかったことかな…。あと、他に学生がいなくて少し寂しかったな。でも若手の職員さんを中心にすごく仲良くしてもらって、苦労しつつも楽しいインターンだった！他には地方から東京に行って過ごす費用面かな。

実際の「おしごと」に触れる 模擬感がない 他に学生がいないことは逆に有意義

(2)OBOG 訪問について

対談者紹介



ひまわり(H.I.さん)

千葉出身。大学院で政治学を学ぶ。野球好きな好青年。



水仙(A.I.さん)

福井生まれ、京都のロー生。
2度目の司会役。

・OBOG 訪問ってなんだろう？応募のポイントは？

水仙 OBOG 訪問って何ですか？どう応募しました？

ひまわり OBOG 訪問は官庁訪問前に受験を予定している者が本省の職員を訪ねるものですね。

水仙 なんか大変そうですね！どんなふうに応募すればよいんですか？

ひまわり E-mail で応募できます。事務系(総合職)・事務系(一般職)・理工系(総合職・一般職)で応募先アドレ

スは異なります。メールを送るとしばらくして、担当者から訪問日時調整のための返信が来ますよ！

水仙 何か応募の時点で準備しておくこととかは？

ひまわり 応募時に当日の目的を予め決めておくとうい
ですね。そうすることでより職員さんと深い話や、やり取り
ができますよ。

応募はメールで 応募理由は具体的なものに絞る！

・OBOG 訪問って実際に何をするの？

水仙 ひまわりさんは、複数回訪問に行きましたか？

ひまわり 私は2回行きました。1回目は地球環境局総務課企画法令係長の方で、2回目は水・大気環境局土壌環境課係長が対応して下さいました。

水仙 それぞれ、どのようなことを聞けましたか？

ひまわり 1回目は携わっている業務の内容、『やりがい』

『大変なこと』について教えて貰いました。

2回目は法改正の過程を学ぶことができました。

水仙 貴重な体験をすることができそうですね！！

ひまわり そうなんです！現役バリバリの公務員の方と1対1で1時間半もお話をすることができました。説明会や少人数相談会では聞けないことも聞けましたね！

マンツーマンで1時間半も！ 直接聞けるお話にこそ価値あり

(3)インターンと OBOG 訪問まとめ

・どんな人にお勧めするか？

水仙 インターンと OBOG 訪問は共通性がありますね。

ひまわり そうですね「1対1」「時間の長さ・濃さ」「職員との距離の近さ」に共通性があります。

水仙 どんな人にお勧めすべきでしょうか？

つつじ 少しでも興味のある人・迷っている人は行くべ

き！あと内容が濃いから説明会に複数参加するよりもコスパがあると思う。

ひまわり そうですね！ただ、応募の理由は具体的に詰めて記載することが参加時の理解の促進につながるため重要だと思います。

両者共通性あり 濃い時間を過ごせる コスパも高い 迷ったら参加！

海外留学経験者の対談

対談者紹介



水仙(A.I.さん)

福井生まれ、京都のロー
生。2度目の司会役。



薔薇(M.H.さん)

兵庫生まれ。英国の大学
に進み、史学を学ぶ。



梅(K.M.さん)

神奈川生まれ。北京に
て国際関係学を学ぶ。

・海外留学の場所、勉強内容、留学を決めた経緯

水仙 二人は、どちらの国に留学していたの？

梅 僕は中国の北京！

薔薇 私は、イギリスでした。

水仙 向こうではどんな分野を専攻した？

梅 私は国際関係学を専攻したよ。

薔薇 私は、歴史を学びました！いろいろな時代・地域の
ものを学びましたよ。

水仙 私は留学したいなと、なんとなく思いつつもしなか
ったけれど、どういった思いで留学を決意したの？

梅 僕は、アジア太平洋地域の国際関係に興味があって、

その中でも特に日中関係に強い興味があったからかな。
だから、中国のことをもっと学びたいし、中国語もできる
ようになりたかったことと、中国のことを知りたいという想
いがあって留学を決めたよ！

薔薇 私は広く歴史を学びたいという思いがあった。でも
日本の学部だと専攻する歴史の分野が限定されていて
不便だなと思ったからイギリスの大学に留学した！イギ
リスではいろんな場所・時代の歴史を学べて本当によかつ
たよ！

国際関係学 歴史学 みんなちがってみんないい！

・なぜ環境省に？留学経験から導かれるものとは？

水仙 法学、環境法などを学んでいた自分からすると環
境省を志望する理由って見つけやすかったけど、みんな
はなんで環境省を志望した？？

薔薇 私は社会を変えていると実感したいと思った。「現
在」っていうのは今この瞬間も「過去」になっていて、「未
来」につながっていくと思う。そう思うのはイギリスでい
ろんな歴史を学べたからかな。その「現在」で一番ホットな
テーマが環境問題で、自分が環境問題に取り組むことが
できたら「環境」を軸とした時の流れの中で社会に影響を
与えられるかなと思った！もともと、子供のころから草木
や生き物とか、自然が大好きだったこともあるけどね！

梅 僕は留学というより、留学を含めた海外での様々な
経験体験から環境を意識するようになったかな。

水仙 それは、どんな経験？？

梅 環境問題って、日本にいと現実感がなかったけど、
バックパック旅をした時に身近な現実な問題として実感

できた。例えば、汚染されたガンジス川での沐浴で体調
を壊す人を目にしたこととか、北京の大気汚染とかを経
験したことで環境問題の重要性を再認識できたね。そこ
で、やっぱり環境を保護・改善していくことってすごく重要
だと思ったな。

水仙 梅の専攻との関係ではどうつながるかな？

梅 環境問題の先には、国際的な文脈での飢餓や貧困、
環境難民、国際紛争などのリスクがあると思う。だから、
先手を打って、環境問題に国家間でしっかりと対処する
ことができれば政治的にも経済的にも「ウィンウィン」とな
って、国際平和構築の基礎となると思う。真の対立要因
になる前に環境リスクに取り組むことは国際平和の観点
からも、とても重要だと思うよ！

水仙 すごいね。二人とも時の流れだったり国家間だつた
り視点が大きいね!!法的な細かな議論をしていた私と違
って良いね！みんなと会えて、ほんとうに嬉しいよ。

将来働く「国」と「方向性」は早めに意識！！勉強も情報収集もネットをフル活用！

・留学をしながら進路を考える後輩に向けたアドバイス

水仙 正直、留学の傍ら国家総合職を目指そうなんて想像できないんだけど、就職活動する際のポイントを教えてほしい！

梅 そうだね、総合職志望者だけではなく、一般的な留学生に対してのアドバイスになるけれど、早い段階で「どの国で働くか」を決めると良い。それを決めることでそれぞれの採用過程に対応することができる。各国で採用の方法は違うからそこは明確にするほうが良いね！

水仙 薔薇はどうでした？

薔薇 私は日本に戻りたかったから、最初から日本に決めていたよ！志望は総合職がメインで民間も少しって感じかな。働く国・志望の方向性は大学 2・3 年生時には何となく決まっていたね。やっぱり総合職は試験対策も1年はかかったから方向性を早めに意識するのは必要！！

水仙 在外にいてどうやって日本の試験攻略した？？すごい！？

薔薇 試験対策は予備校に完全に頼りました。ウェブ講義で勉強しました！それがなかったら…って感じだよ。

水仙 在外でネット講義聞いて学習！なんかすごい、ネッ

トって偉大だね！自分は人生で予備校とか塾とか行ったことないからこの話には感動したっ！ネットなら、いつでもどこでも聞けるもんな。いや、ホンマにスゴイ！

薔薇 官庁訪問前に帰国した時に予備校の人に実際に会って情報も聞けたし、情報面でも大丈夫だった！ちなみに海外在住だからほぼ説明会も行っていない…。試験について補足だけど、私は政治国際区分に落ちて、教養区分で受かっている。人事院の意図では、教養区分が海外在住者対象みたいだけど、2回帰国する必要があったから意外と面倒だったね。教養区分の試験範囲はいわゆる日本国内でいう文学部系の人にはもってこいだけど。

水仙 情報収集の面ではどうだった？説明会には行ってないみたいだけど。

薔薇 情報については人事院とか各官庁がネット上に記載してくれている情報で足りたよ。むしろ民間の方が、リクナビとか通しているからたくさんあって情報が溢れていて、収集しにくいって感じ。

水仙 ヘー。意外と海外在住者からしたら意外と官庁のネットでも平等に情報取得できるのね。

海外への対応力を生かして・それで楽しむのが『海外経験者流』

・海外を視野に入れた活躍について

水仙 海外経験者だからこそどう活躍したいかを聞きたいな！

梅 自分は特に国際的な業務で活躍したいと考えているよ。日本の政府機関から「環境」という世界全体の普遍的な課題に対して、様々な国際的な枠組みの中で働いていけたらと思っている。そのためにも自分の言語力とか国際的な経験を生かしていけたらと思うよ！

薔薇 私は特に「国際的」ということに縛られないでいいと思ってる。ぜひ国内に目を向けたいと考えているよ！ただ、これからはどうしても国内でも海外の情報を駆使して国内でも働かなくてはと思っているから、自分の持つ国際的な対応力を生かしていろいろな情報を得て働きたいなと思うよ！もちろんどこに行くのも楽しいと思えるので「海外」となれば、それはそれで楽しみだなと思う！！

『環境』は地球規模での問題 海外経験者だからこそ色々見えてくる

地方出身者の『対談』

対談者紹介



もみじ(Y.T.さん)

広島出身、京都から
官庁訪問へ。開発協
力を学んでいた。



水仙(A.I.さん)

『法曹志望』から『公
務員』へ。他の二人
と違い公務員試験と
かあまり知らない。



つつじ(C.Y.さん)

長崎出身、北海道か
ら官庁訪問へ。歴史
を学んでいた。

・官庁訪問中の宿選び

水仙 俺は、友達の家で厄介になって、とても楽できた。
みんなは？

もみじ 私は実家がたまたま東京転勤になったから家か
ら通えて助かった！転勤になる前までは友達のところに
泊まろうと思ってたよ。

つつじ 私はホテルだった。13万円かかったよ…。ホテル

選びのポイントは①朝食があること②霞が関にすぐ行け
ること、が重要だと思う。人事院が斡旋する宿泊施設もあ
るけど、私は一人の時間が欲しくてホテルにしたよ！話し
相手が欲しくて斡旋先とかホステルにしたっていう友達も
いたから、そこは好みかな！

移動時間などの下調べは絶対必要！ 朝食付きは◎！ 友達には早めに

・官庁訪問中の休日の過ごし方

水仙 俺、休日は居候先の友達と「美味しいごはんとお酒」
「観光」「映画」「対戦ゲーム」で楽しみました！みんなは？

つつじ 私は、一人で過ごすことが多かったね。カフェで
官庁訪問の「まとめ」をしたよ。一人だからこそゆっくり過

ごして、精神統一ができたかな！

もみじ 私は彼氏とデート(笑)志望動機のブラッシュアッ
プも手伝ってもらった！あと家族との会話でリフレッシュ
できた。家族の心遣いが心の支えになったかな。

休日はリフレッシュと翌週への備えに使うべし！！

・訪問までに地方だからこそ苦労したこと

水仙 地方にはどんな苦労があった？

もみじ まわりに総合職志望者がいなかった。情報がな
かったね！

つつじ 私の大学も、同じ状況かな。

水仙 それって説明会・インターンレベルの情報源でもお
んなじ？

もみじ 関西圏では他の地方より説明会があった気がする。

つつじ 北海道では省庁の説明会が全体的に少ないね、
人事院開催の説明会が2回ほどあったぐらい。インターン
に行くのが大変、説明会が少ない、情報が少ない。でも
不利ではないのかも…(後述)。

地方は情報不足！どん欲に収集せよ！ただし振り回されないことも大事

・後輩に教訓として伝えておきたいこと

水仙 結局、情報に接する機会が少なくてそれで不利に感じたのかなあ？

もみじ 少ない情報源、少ない機会で企画に参加したことでアピールできた！

つつじ 私も地元説明会で、参加者が少なすぎて省庁の担当者とマンツーマンでお話しできた。担当者の方に本

当にプライベートなことも聞けたし、濃密なお話しができたかな。もっと言うと「顔を覚えてもらう」って意味でもとても有利だったと思うよ！

もみじ 遠方から参加することで「参加した省庁に強い関心がある」と伝えることができたのかなと、今になって思うな。

地方は志望者が少ない⇒自分の「個性」「志望度の強さ」を採用担当に印象付けやすい！

水仙 ほかに何かある？

つつじ 省庁開催の企画には、いろいろ参加すべき！担当者とか企画の内容で志望がガラッと変わることもある。

もみじ そうそう、実際に官庁訪問中に志望が変わることもあるし、事前にそのカラーを知ることは絶対重要！

官庁主催の企画には迷ったら参加すべし！自分との相性を調べることができる！

水仙 官庁訪問中に意識すべきは？

つつじ 『明るさ』『感じのよさ』が大事！

もみじ 『バランス感覚』も重要！

水仙 A・K・B やな！

つつじ・もみじ ……。

つつじ あと、1次2次試験の成績は考えなくてよい！！人間性を見てくれる。

もみじ 『素直さ』『興味関心の高さ』をアピールすることが大事。私は環境省に2日目に行ったけど、こころをア

ピールできたから評価してもらえたと思う！

つつじ 前提知識とか全く知らないけど、説明会とかに参加して各省庁の政策思考を知っておくことが官庁訪問成功につながると思う。

水仙 官庁訪問はコミュニケーション試験だけど、決して「話す」ことではなく「聞くこと」が問われていると思った。素直に「聞いて」理解できて、初めて「話せる」と思った。『話すこと』がメインではないね。

官庁訪問勝負！『聞いたこと』を自分の頭で考えて『話すこと』が肝要！

おわりに

最後まで「内定者の声」をお読み下さりありがとうございました。

本冊子を通じて皆さまの環境省に対する理解が少しでも深まり、また関心が高まったとしたら、内定者一同大変嬉しく存じます。また、私たちの「環境行政で国に貢献したい」「愛する日本を守りたい」という想いを本書から感じ取って頂けたのではないのでしょうか。

本冊子においては、随所で「情報」をまとめたページを作成致しました。試験勉強中、就職活動を始めた時、省庁の情報が欲しい時、漠然とした不安な気持ちの時、様々な場面で、本書を活用して頂ければと思います。

生涯を賭けて歩む道を決断する上で対峙するであろう、「環境省とはどんな組織なのか???」「皆は何を考えて環境省を志望するのか??」との質問に、内定者プロフィールや座談会を通じて知見を獲得し、ご自身の「迷いのない一歩」を踏み出す契機となれば、至上の喜びです。

もし「環境省のことをもっと知りたい!」と思って頂けたなら、ぜひ環境省の HP にアクセスし、説明会等に足を運んでみて下さい。環境省の管轄業務や、職員の方々の想いを直接知り、見える世界がまた変わるかもしれません。

それでは、説明会ひいては官庁訪問にて皆さまとお会いできる日を心から楽しみにしております。

令和2年度環境省総合職事務系内定者一同

※本冊子の一部コンテンツとして、大久保浩「design parts collection シリーズ 花 水彩 flower 素材集」(技術評論社、2019年)の使用権を内定者が購入して使用しております。またその他のイラストおよび写真素材は、Microsoft Word のフリー素材ならびに内定者が撮影した写真を使用しました。なお、画像編集には Canva (<https://www.canva.com/>)を使用しました。

環境省

Ministry of the Environment

令和2年度 環境省総合職事務系内定者